

審議会等の会議結果報告書

【担当課】 生涯学習課

会 議 の 名 称	令和 7 年度 第 1 回茅野市社会教育委員の会議		
開 催 日 時	令和 7 年 6 月 2 7 日（金）午後 1 時 3 0 分～午後 3 時 1 2 分		
開 催 場 所	茅野市役所 8 階 大ホール		
出 席 者	矢崎智義委員（委員長）、竹内郁子委員（副委員長）、市川純章委員、島立幸男委員、中村正幸委員、宮坂章委員、矢崎知広委員 山田教育長、小池生涯学習部長、五味こども部長、矢嶋生涯学習課長、武居生涯学習係長、神近生涯学習係主任、木川中央公民館長、五味教育係長、伊藤図書館長、湯田坂文化財課長、柳川文化財係長、山科尖石縄文考古館係長、正木博物館係長、上条スポーツ健康課長、笠原スポーツ健康係長、両角こども課長、野明こども係長		
欠 席 者	渡辺修委員		
公開・非公開の別	公開・非公開	傍聴者の数	0 人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容（概要）		
教育長	1 開会 2 委嘱書交付 3 教育長あいさつ 皆さん、こんにちは。社会教育委員をお引き受けいただき、ありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。 私たちが願うのは、すべての人々が互いに尊重し合い、地域社会の課題を解決し、より住みやすいまちを作ると同時に、自分たちが幸せになっていくことです。 社会教育委員の皆さんが地域の声を吸い上げ、この委員会でご意見をいただき、私たちと共に様々な課題の解決を検討していただきたいと思います。 高齢化社会は、総人口の 7 % 超で高齢化社会、21 % 超で超高齢化社会と言われます。日本全体では平成 19 年に 21 % を超え、超高齢化社会を迎えました。 茅野市は令和 7 年 3 月現在、65 歳以上の方が 30 % 以上を占め、日本の中でも超高齢化社会が進んだまちです。ところが日本老年学会によると、実際の年齢から 5 ～ 10 歳を引いた年齢がその人の生きている年齢だと言われています。そのような中で様々な方がいますが、例えば高齢者の皆さんが余暇や余生を楽しむ発想ではなく、知恵と知識を使い社会の主人公として活躍し、このまちをよくしていこうとしている方々に社会教育を展開していただきたいと思います。 0 歳から超高齢者まで、すべての方が協力してすばらしいまちを作り、皆が幸せに暮らせる社会教育を進めて参りますので、どうぞよろしくお願いいたします。		

	たします。
	4 自己紹介
生涯学習課長	5 正副委員長の選出 それでは次第の5、正副委員長の選出について、どのようにしたらよろしいか、お諮りしたいと思いますが、いかがでしょうか。 (意見なし)
生涯学習課長	それでは事務局案ですが、委員長を矢崎智義委員、副委員長を竹内委員にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。 (承認)
生涯学習課長	それでは、矢崎委員と竹内委員は正面の正副委員長席へお移りいただいて、矢崎委員長には議事の進行をお願いします。
委員長	これまで図書館協議会を続けてきました。図書館に美術館があり、美術館が茅野市民会館に移る際、矢崎市長の時代にその跡地利用について、市民や学校の図書委員など約30人が集まって話し合いをしました。その結果、図書館に滞在して長い時間利用してもらうことを目指し、現在の図書館ができました。 社会教育委員の皆様には、大変お忙しい中お集まりいただき、また職員の皆様にも感謝申し上げます。共に、茅野市図書館や生涯学習、社会教育について考える時間が持てることを願っています。 この会議の結果が、「このまちに住んでいてよかった」「これからも皆さんと一緒に暮らしていきたい」、あるいは「仕事で疲れていても、何か希望が見えてきた」という市民の声に繋がれば嬉しいです。そして、それが次の生活に繋がっていけばと思っています。今ここにお集まりの皆様は、社会教育を考え、実践に移せる立場の方々です。他の市民にはなかなかできないことです。ぜひ、これからの1年間、2年間、高い志を持って一緒に活動できればと思います。よろしくお願いいたします。
副委員長	女性団体連絡協議会の会長を務めております。高齢化が進み退会する団体が多く、現在は少数の団体で活動しています。皆で協力し、さまざまな事業に取り組んでいます。私も社会教育委員を何期か務めさせていただき、民生児童委員も兼任しており、両者には共通点があると感じています。皆様とともに、どこまでできるかわかりませんが、引き続き務めさせていただきたく、ご協力をお願い申し上げます。 6 審議会の公開について 審議会の公開について事務局から説明。 本日の会議の公開、議事録の公開について説明及び確認を行い、非公開基

	準に該当する項目はないため、当会議を公開とします。議事録に関しては、委員名を表示せずにホームページで公開します。 (承認) 7 会議事項 (1) 令和7年度社会教育委員年間事業計画について (資料に基づき、事務局から説明を行う。) (意見なし) (2) 社会教育関係団体への補助金の交付について 資料に基づき、事務局から説明を行う。 (意見なし)
委員長	それでは、7年度 of 社会教育関係団体の補助金につきましては適正に行われますようお願いします。
委員	(3) 令和7年度茅野市社会教育に関する計画及び課題について 資料に基づき、事務局から説明を行う。
生涯学習課長	膨大な資料をここで見て審議はできないので、事前に送付してほしい。 大変申し訳ありませんでした。次回の会議から事前にお配りします。
委員	(4) 社会教育委員の役割について 資料に基づき、事務局から説明を行う。 この会議に何回か出ていますが、この会議について、個人で KJ 法を行いました。 社会教育委員会の会議が何のための会議かわからない 各部署の報告を聞いて感想を言うだけの会になっている 社会教育について意見を言っても、言っただけになってしまう 茅野市の社会教育全般について議論することがない 会議では意見を言うだけで議論をすることがない 茅野市の社会教育のあり方についての議論がない 各部署の担当者が議論に参加できていない 各部署には審議会、協議会があり二重構造になっている 茅野市教育大綱へ向かっているのかどうかの議論や会議の内容が一致していない 希望としては、茅野市の社会教育について関係者がみんなで議論できる場が欲しい 茅野市教育大綱の実現に向けての議論をしたい

委員	各種の施策が教育大綱の実現に沿っているかという議論をしたい このような意見を、事務局に出しました。ネットを見てみると、多くの自治体が同じような疑問を持っていました。どの自治体も、県レベルでも市レベルでも、社会教育委員が何をしたいかわからない、どんな仕事をしたらいいかわからないという状況です。今日皆さんにお話ししたいのは、皆さんが社会教育をどのように考えているのか、また、今まで出席されていた委員の方々が、この社会教育委員の会議をどんなふうにしたらいいと思っているのか、職員の方々も、実際に携わり、現場にいるので、茅野市の社会教育がどんな方向にいったらいいか、またこの会議がどんな会議になったらいいか、お聞きしたいです。それが、茅野市の社会教育、茅野市が良くなっていくことに繋がるという気がします。すぐに結果が出なくても、こういう動きをしていけば変わっていけると考えています。これから1年または2年かけて、議論をし、何か結果が残せるようにしていきたいので、ぜひご参加いただいて、ご意見をいただきたいと思います。委員の方々、職員の方々も教育大綱、上位計画がどんな計画があって何に向かっているのか理解いただき、それを踏まえて議論し、社会教育や生涯学習についての情報をネットや書籍などに目を通していただいて、学んでいただきたい、そしてご意見をいただきたいと思います。 私も結構長く社会教育に関わらせていただいて、最初は色々な地域で文化教養の活動報告会という承認会議のような形で見ていましたが、身近に感じるのがこの10年、特に5年くらい前から顕在化し、今はもうそのど真ん中と思っています。地域の担い手不足だとか、自治でも良いですが、やり手がない。あるいは財政が困窮し、何かできなくなっていると聞くうちに、個人が主役ではあるけど、人は集団で社会を形成しているという点に着目しました。人口減少や高齢化が進む社会で、今までの形ではいかないと感じた時に、自分たちで何とかしていく人、協力し合って何とかしていく人の心の社会性、そういった教育はどこで行われているのだろうかと考えました。生涯学習に関する資料を読むと下地はたくさん書いてあるが、結局個人の充実で終わっていると感じます。社会教育は、一段上の社会性の教育、社会的な組織的教育システムというように法律上は書かれていますが、その点が欠けている気がします。法律は、下準備の話だけで、それをどこに目的を持つかというところは、各市町村の自由だと解釈しました。 そう考えると、私の言葉で市民、色々な面で進んでいる人たちが自分たちで集団を形成していく、自治、その学びはどこで行うのだろうか。学校も、繋がりが弱いのではないかな。日本のシステムとか国際システムとかは教えるけど、自分たちが生活していく周辺の人付き合いはないのかな。そう考えていくと、茅野市でどうやって市民として暮らしていこうかと考えると、そこが社会教育で扱っていい領域じゃないか、ここ何年間かの思いです。 そうやって茅野市の社会教育を見ると個人のレベルの充実で終わってしまうのかな。これは大学の教育でも似たようなところがあって、学問の1つ1つのことを教えるのは、個人にスキルや知識を与えることになるけど、何のために学ぶのか、いつスキルを見つけるのか、結局世の中で課題解決をしていくためだから、最近では大学でも社会課題を解決する実践的なプロジェクト
----	--

	トを授業に入れる形で、学んだことをどう社会に出していくのかグループ学習で考えていくことをしています。だから、生涯学習はどちらかというと個人の充実で止まっているので、それを社会的な自分たちが集団で形成しているところへの学びを少しやっていかないと、ここからは何か厳しいのかなと思います。それを積極的に扱っていくときの社会教育委員の会議は各社会教育施設の取組へのヘッドクォーター的な位置にあるのかなと感じました。基本的に社会として人々が自治をしていくところにつなげていくことじゃないかなと思います。 最後になりますが、教育大綱も、社会教育推進計画とか方針も薄く人々の繋がりやまちづくりといった要素は入ってはいますが、結局個人の学習の機会が終わってしまって、もう1個何か言っていますが、よく読まないを書いてある程度で終わってしまう、もっと明確に打ち出した方が、今必要なことはここだとなるのかなと思っています。そういうのを考えていくのが社会教育ではないかなと思っています。
委員	13 ページに記載されているように、各部署の審議会、協議会があり、二重構造だと感じています。公民館運営審議会にも参加し、公民館に関する生涯学習の内容は把握していますが、それが教育委員会の委員としてどう反映できるのか疑問です。
委員	私も7年前にこちらに引っ越してきて、その年に初めて参加し、この会議にも出させていただいています。この会議は地域の文化や生涯学習を捉えるものだ認識していました。 13 ページの資料にある、委員長が掲げた社会教育委員の会議の目的が不明という点については、漠然とそう思っていました。 より具体的にテーマを決めた方がスムーズに進むと思います。教育大綱も読ませていただき、力強さや優しさを感じましたが、漠然とした命題です。例えば、冒頭で教育長が述べた茅野市の高齢化率を踏まえ、医療に焦点を当て、地域住民への医療サポートを議論するのはどうでしょうか。私も大腸がん検診や带状疱疹の情報から、茅野市の取り組みに感銘を受けました。 具体的なテーマに絞って会議を進めるのが良いと思います。 医療に関して、高齢化が進む中で様々な思いがあります。理数科の職員が大腸癌検診について課題研究をしており、中央病院と連携し200円程度で受けられる検便の受診率が低いことを問題視しています。年末にはテレビ局が取り上げるそうです。 具体的なテーマがあった方が取り組みやすいと思います。
委員	茅野市にはどんぐりプラン、ビーナスプランという非常に先進的なプランがあります。健康や子どもたちに関して、それがなぜ成功したのか話をしていきたいと思いますが、目の前にある問題に対してものすごく良い結果が出ています。
委員	この社会教育委員の会議で発言した意見が、どのように反映されているかという点が、委員長と同じく、目に見える形で出てきていないという点が、

委員	一番の問題かと思います。それぞれの部署で、市民の皆さんに参加してもらうべく、多くの素晴らしい企画を出していただいて、その結果を報告していただいているが、最近言われているように財政難ということもあり、市民負担が増えるのではないかと話を耳にします。市民に良いことを進めようとするところと、反比例しているのではないかと現状を憂慮しています。 自分の学校をどう立て直していくか、日々の生活をどう送るかという点についての議論で、狭い範囲の中で殻に閉じこもってしまうのではないかと危惧しており、皆様に支えられている義務教育の現場で学ばせていただければと思っています。 永明中学校では、「探求」をテーマに、未知の正解がなかなか見つからない中でも、読書や図書館教育をベースにし、9年間一貫教育に取り組んでいます。 先ほど話題に上がったビーナスプランでは、「みんな同じ」から脱却し、多様な価値を包み込む温かい学校を目指しています。本校では実際に温かい空気が流れ、怒鳴り声のない学校づくりを自慢としています。 職員一同、日々試行錯誤していますが、「みんなと同じにしないでいい」という感覚は、私が育ってきた時代には強くありました。私自身が茅野市でお世話になり、中学校の出口をどう捉えるかという点で大きく変わりました。以前は中学校長として、「自主自立こそが一人で生きていく力」だと講話していました。しかし、茅野市でお世話になる中で、人は一人では生きていけないと気づき、学校づくりの中でそのことを考えています。 本校では、皆様の言葉が相手に生きる私をどう見つけていくか、職員で模索しています。社会性という視点で見ると、子どもたちが成長し、茅野市を支え、地域に参画してくれることを願っているからです。
委員	先ほどおっしゃられたように、テーマを決めるのも大事だと思います。「読み一む in ちの」に関わっていますが、読書活動は社会教育の一部です。生まれた時と4か月に本をプレゼントし、小学校1年生にセカンドブックを30冊から選んでプレゼントしています。幼い頃にプレゼントした本が、1年生でどう根付いているか、今後の成長にどう関わるか。「読み一む in ちの」に所属しているので、社会教育との繋がりを感じています。民生児童委員として高齢者宅を訪問し、電話で話を聞くことも、高齢者社会での社会教育に繋がると考えています。人の痛みが分かり、喜びや悲しみを感じられる人間形成が、社会教育に繋がると思います。
中央公民館長	公民館から、感想を含め個人的な見解もありますが、公民館はそもそも戦後から始まり、一民主主義の指針などで、いろいろな課題について地域で課題解決をしていこうと始まりました。だんだん自己実現のための講座が中心になり、自己実現の機会が主になっています。公民館は、誰もが集まれる場である「たまり場」です。そこを無料で使っていただきたいというのが、公民館の最初の7つの原則にありました。誰でも自由に、いつでも、どこでも集まって学べる場、それが公民館でした。しかし昨今は課題が薄れ、財政難もあって、利用料をいただくという話も出ています。自己実現も大事です

	が、好きなことをして楽しい思いをする、集まって話をして、やってよかったなと思えることも大事です。今の課題は、自己実現だけでなく、そこで得た学びをどう地域に還元していくかという点です。今、大きな転換期を迎えています。それをどう展開していくか。例えば住民自治について、「自治、自治」と言っていると、地域の皆さんは面白くない、お堅い話になってしまうことがあります。どう学びを自治につなげていくか。そこが今、公民館の抱える大きな課題です。自己実現も大事ですが、これからは学びを自治につなげるきっかけを公民館としても果たしたい。公民館だけがすべてをやるのではなく、どの施設も、どの機関もそういうことを目指していくことが必要だと思います。
図書館長	公民館で学びを自治につなげる話が出ていますが、図書館が積極的に講座を開くよりも、まずは場の提供を考えています。図書館をそのような形で利用いただけるといいです。委員長と図書館協議会の今後について話し合っていますが、まずはみんなで考えるのがいいという結論に至っています。テーマがあれば、取り組みやすいですが、具体的なことはまだありません。
こども課長	こども課としては、青少年教育という社会教育の中の青少年部分に携わっています。委員の方々からご意見があるように、様々な意見が反映されていない状況は、私も感じています。子どもたちの意見を吸い上げる方法を課題と捉え、子どもたちにも目に見えるような取り組みを進めていきたいと考えています。
こども係長	以前、公民館に2年間勤めていました。その時に初めて「公民館をやる」という言い方を知りました。公民館は建物の名前だと思っていましたが、実は役割のことだと分かりました。公民館の役員をすることをそう言うらしいのですが、何だか暖かく、これまでの歴史を引き継いでいるのを感じました。そこで今思うのは、人づくりの大切さです。個人の充実も大切ですが、個人の学びをどう社会の課題解決につなげていくか。個人の学びから社会課題の解決につながることを伝え、楽しく学べるように、社会の課題解決につながることを一緒に学んだり教えたりできる人が必要だと思います。地域や市役所など、地域の中にそのような人がたくさん出てくることで、社会教育はもっと充実すると思います。
文化財課長	市民に愛される文化財を目指し、遺跡公園の整備、市民総学芸員化推進事業などまちづくり、人づくりに活かす事業に取り組んでいます。委員の皆様からのご意見も参考に、子どもたちが何度も足を運びたくするような施設にできればと考えています。
文化財係長	文化財係は、文化財を保護していくのが主な仕事です。縄文時代の遺跡などが有名で、各地区の遺跡の保全や地域の人たちとともに保存していく必要があります。 縄文時代の遺跡以外にも、多くの石造物や古文書類があり、これらも地域の人たちと保全すべき貴重な文化財です。

考古館係長	地域にとって文化財が重要であることを発信する必要がありますが、発信力が不足しており、十分に伝わっていないと感じています。 地域との繋がりには重要であり、社会教育的な繋がりを深める必要があると常々考えています。 考古館も文化財を一般の方に価値が伝わるように展示しています。特に国宝をはじめとする国指定文化財、長野県宝である信州の特色ある縄文土器をいつでも見られるように展示しています。しかし、文化財の価値を伝えるのは難しいです。専門的な立場から貴重だと分かっている、なぜそれが貴重なのかをうまく伝えられないことがあります。それを伝えないと、博物館の存在意義が理解されないと考えています。 10年以上前から縄文プロジェクトがあります。縄文科、現在は縄文市民科として、学校教育の現場に出かける機会が多く設けられています。特に縄文プロジェクトはまちづくりという点がありますが、まちをつくるためには人づくりから始めなければなりません。人員的には非常に苦しいですが、なるべく出前事業を行い、今日も金沢小学校6年生が縄文検定を去年受けたので今年の中級を受けたいということで来てくれました。そういうところにしっかり応えていくことを大事にしています。先生方のお話を伺って、地域の皆さんとの接点がまだ足りていないと感じています。
博物館係長	総合博物館なので、博物館すべてが学びという考え方で、いろいろなことを学びの場として提供しています。 そこで得た学びを地域に還元して、まちづくりや人づくりにつなげるにはどうしていったら良いかを日々考えながら、講座等を開催しています。
スポーツ健康課長	スポーツ健康課では、スポーツを通じた健康づくりとして、市民一人ひとりが生涯を通じてスポーツができるよう、それぞれのライフステージに応じた環境を整備し、市民スポーツを推進しています。そうした中で、すべての市民が豊かなスポーツライフを送り、生涯を楽しく健康に生きるという基本理念のもと、基本目標を掲げ、地域における子どものスポーツ機会の充実、ライフステージに応じたスポーツ活動の充実、市民が主体的に参画するスポーツ環境の整備、スポーツの果たす役割の活用など、教室の開催、スポーツ協会を通じた地域のそれぞれの活動の補助などを通じ、競技力向上、団体活動の活性化を目指しています。また、運動公園の多大な施設を抱えており、すべてが老朽化してきている中で、施設をどう維持管理していくかが課題であり、解決に向けて現在邁進しています。
スポーツ健康係長	委員長のご意見では、会議の現状は、確かに何のための会議がよくわからないという点があるかと感じます。7番のところにあるように、各部署には審議会があるので、この会議に参加し、ここではある意味、意見や情報交換の場とすることが1つの大きなテーマだと思います。委員の皆さんがおっしゃられた通り、何かテーマがあれば話し合うことができる場であると思いますが、個別具体的なものになると、各部署の審議会や協議会と重複してしまいますので、委員長がおっしゃっていたような教育大綱に向かったのテーマ

	で話し合うのが、この委員会なのではないかと思いました。
公民館係長	公民館は社会教育において重要な役割を担っていると思います。課題は多いですが、多くの公民館では様々な講座を開催し、それらが社会教育や自治に繋がらない場合もあります。しかし、地域課題に気づくきっかけを作ることが私たちの仕事です。直接的な繋がりがなくても、地域課題への気づきや、困りごとの解決に繋がるきっかけを大切にしたいと思います。様々な講座を通して、住民の多様なニーズに応えつつ、地域課題の解決に繋がる活動を公民館として行いたいです。
こども部長	社会教育法を調べたところ、社会教育法第 15 条で、都道府県、市町村に社会教育委員を置くことができるとされています。茅野市が社会教育委員を置き、皆さんに社会教育委員を受けていただき、委嘱しています。市が社会教育委員をお願いしているにもかかわらず、お願いされた方に何をやっているかわからないと言われているのはおかしいと思います。お願いしたにもかかわらず、何をやってもわからず、何をやってほしいのかもわからないのは問題です。そもそも市として機能していなかったということです。 今年度、こども部は、事業の棚卸しを一番の施策に据え、すべての事業を棚卸しすることにしました。もともとこの事業は何を目的にしていたのか、その目的達成のために今の手段が合っているのか検証し、今の手段が間違っているのであれば変える、足りなければ足す。不要であればやめる。それを見極め来年度の予算につなげることをしています。 今回、委員長に提案していただいた内容は、今までのようなやり方がこんな状況を作ったのではないかと考えています。 今回の計画及び資料の 4、一番最後のページにこども課こども係の役割と課題が書かれています。もともと子ども部ができる前は、生涯学習課の青少年係が社会教育に携わっていました。部が分かれて青少年係がこども部こども係になったので、こども係が青少年教育を担っています。そのため、社会教育委員の会議にも参加しています。 こども係の青少年教育を顧みると、こども会育成会さんが行っている体験機会が主な活動でした。市が直営で青少年教育を行うことはほとんどありませんでした。課題に書いてあるように、青少年教育に関わる事業を整理し、団体との関わり方や市が何をすべきかを明確にし、今年度 1 年間整理して、次年度につなげたいと考えています。 いずれにしても、市として、社会教育委員の皆さんに何をさせていただくかを市がしっかりと考える必要があります。
委員	図書館の関係について、いろんな事業をやってきました。館長が数年ごとに変わり、変わった途端に新しい事業をやるのは無理で、前任者のものを引き継いでやっています。 図書館の目標があり、それに対して何が必要か議論し、行ってきました。ある時点で一回全部やめて、この目標を何のためにやっていて、他に何か方法があるのかという議論をみんなですていかないといけないのかなという気がしました。

教育長	今、図書館の話が出ましたが、来年度の図書館計画を、知恵を絞り立てています。今までとは少し違ったものを提示できるかと思います。確かに13ページに書かれているように、今までの形式で進めていけば、私たちも自分の守備範囲の説明をし、その範囲での計画を出すことになります。そうすると、皆さんはそれに対して意見を述べるしかなくなり、営業的な意見も言えなくなるという体質になってしまいます。 今、いろいろな意見をお聞きして、ひとつは、何かテーマを決めて、その解決に向けて話をしていく。もうひとつは、テーマを引き受ける形で、こちらから具体的に「このことを一緒にやってほしい」という提案をしていくことです。 テーマは3つ考えられ、ひとつは、極めて具体的なテーマで、範囲が狭まります。もうひとつは、少し大きなテーマで例えば「人との絆をどうするか、そのために何ができるか」というものです。そして中くらいのテーマとして、例えば「人との絆づくりや地域課題解決のために、公民館の役割についてアイデアを出す」というものがあります。 市としては、社会教育委員を委嘱していく以上、今年は公民館について、今年は図書館について、協議会以外からも広く考えてくださいとお願いできると良いのですが、いずれにしても、今年を大きな転換点にしていかないと今まで通り、自分の守備範囲の考えでいってしまうと思います。
委員	テーマを決めることも、とても大事だと思います。普通、物事を決めるときに、あるべき姿と現況があります。そのギャップが課題と言われています。その中から何をテーマとして選んでいくのかの議論になるかと思います。事務局とも連携しながら、どう会議を進めていくか話をしたいと思います。
生涯学習部長	生涯学習部は多くの施設を抱えています。博物館や図書館、公民館など、それぞれの館でやるべきことが教育大綱、社会教育推進計画等に記載されています。 職員は自分のこととして計画に基づき何をすべきか原点に戻ることを4月の生涯学習部経営方針の話をする機会に全職員に伝えました。 先日、定例教育委員会で委員から「この計画を一言で市民にわかりやすく伝えるなら？」と質問がありました。 自分たちの活動を明確に説明できないと、毎年同じことの繰り返しになりがちです。各館で茅野市、茅野市民のため、人づくりをキーワードに活動していく必要があります。2年後、10年後の目標を定めれば、担当が変わるたびに計画がリセットされることもなくなります。 永明中学校では「相手に生きる私」を掲げ、目標に向けて何をすべきか、1年後の生徒の姿をイメージして取り組んでいます。職員も目標を共有し、同じ方向を向くことが大切です。各施設、係で目標を持ち、皆様からご意見、評価をいただくことが大事なと思います。 図書館のテーマですが、「行きたくなる、こころおどる図書館」を掲げ、茅野市図書館ならではの選書をしています。緑豊かな立地を生かし、様々な企画を展開し、図書館に行きたくなるような取り組みを検討しています。まず

生涯学習課長	はテーマを明確にし、皆様と共有したいと考えています。 生涯学習課長として、昨年4月から社会教育を担当し、様々なことを学んできました。その中で、いろいろと分かってきたこともお話してきましたが、先程、こども部長から、行政も理解していなければならないというお話がありました。まさにその通りです。しかしながら、行政においても社会教育や生涯学習について、十分に理解されていない現状があります。その違いは何なのかという疑問に対し、社会教育施設という名前がついているため、それぞれの活動を発表するのみに留まっており、「生涯学習とは何なのか」という問いに答えられない状況でした。そこで、この場でその整理をしなければならないと考え、委員長ともお話をしてきました。 その生涯学習について調べてみたところ、ユネスコに起源があることが分かりました。ユネスコでは、生涯学習を個人の成長と社会の発展の両面から捉えているそうです。しかし、日本の文部科学省が導入する際、社会的な側面は十分に考慮されず、個人の自己充足という側面が強調されたようです。そのため、生涯学習が生涯学習メニューの提供といった形になり、市民の方々がそれを受ける側、つまりお客様のような構図になっているのではないかと感じています。一方、社会教育とは戦前から続く概念であり、その中核を担うのは公民館であるというお話がありました。公民館を提唱された佐藤さんも、自己充足と公民館はたまり場であり、みんなが集まり、話し合い、自己解決していく場であると考えていたそうです。この寺中構想が、実はユネスコの生涯学習の理念に影響を与えているということを知り、大変驚きました。結局、両者が言っていることは同じであり、個人の自己充足とともに、1人では生きられないため、相手の中に生きる、社会の中で生きるという側面も重視していくことが、社会教育であり生涯学習であると考えられます。社会教育は、これまでの流れからすると教え育むというイメージが強いですが、そうではなく、自ら学ぶものとして捉え、生涯学習という言葉があるのではないかと考えております。 テーマを設定するなら、自治に役立つ学びかなと考えます。自治とは、何かをしなければならないだけでなく、みんなでプラスになることであり、公民館で行われているレクリエーションのような楽しい活動も自治につながるものと考えられます。そのようなものに繋がることを提供していくことが、社会教育行政、生涯学習行政の役割であると思います。そう考えると、様々な施設がありますが、それぞれの社会教育施設が提供するものがあるはずです。そのような活動が適切に行われているかを検証し評価する場が、社会教育委員のヘッドクォーターというお話がありました。まさにこの会議の場であると思います。
生涯学習係長	社会教育について、事務局として委員の皆さんに何をしていただきたいかが明確になっていない部分があります。生涯学習、社会教育の取り組みを委員さん自身がどのように進めていくのかという点も、今までは会議で行政の計画を説明し、ご意見をいただくのみでした。委員の皆さんの意見を聞きながら、今後どう進めていけるか議論させていただければと考えています。

生涯学習課主任	超高齢化や活動団体の減少に伴い、活動停滞という現状をよく耳にします。現在、後援申請を担当しており、年間 150～200 件の申請があります。その中で、恒例のイベントが多い一方で、若い人が主体となる新しい事業も時折見られます。新しい事業に取り組むきっかけについて窓口で話を聞くと、自分の好きなことを社会に還元したいという声が多いです。 私自身も趣味の登山から自然科学、歴史、文化に興味を持ち、博物館巡りをしていますが、自己実現のためでした。しかし、学んだことを次世代に伝えたいという気持ちが芽生え、都市部の専門家から教えてもらったり、活動団体に仲間入りしたりすることも考えています。 個人の学びの場と発展的な活動の場が重要だと感じています。
委員	茅野市教育大綱に関して、これまで様々なお話がありましたが、予算や予算執行について具体的な数字が全く示されていません。例えば、予算がついているのかどうか、私自身把握できていませんし、茅野市教育大綱の 4 ページ目に家庭教育の充実という項目があり、その中に家庭教育支援の充実とあります。また、社会的援助を必要とする子ども家庭福祉についても、予算がついていて、執行されているのであれば、具体的にどのような支援をどれだけ行ったのかを知りたいです。各施設に関する予算書があると思いますが、今年度はどのような予算配分になり、どのような支援を行ったのか、そしてその費用がいくらだったのかが分かれば、より具体的に理解できます。 現状では単なる文言の羅列に過ぎず、子どもと家庭を応援できる施設のさらなる充実を図ると書かれているだけで、何にどれだけの予算がつき、何を作り、どうしたのか、また、社会的援助を必要とする子ども家庭への支援にいくら予算がつき、どのような家庭を対象にどれだけの予算が執行されているのかが示されていれば、より有益な議論ができるのではないかと思います。
委員	企業で計画を立てる際、資金の用途は必ず議論になる点だと思います。現段階では、どこにどれだけ投資できるか不明確なため、関連資料をいただきたいということでしょうか。
委員	議論を具体的に行うには、予算が必要です。市がどのような家庭にどれくらいの予算をつけ、どのように執行したのかが分かれば、市のサービスが私たち委員にも見えてきます。市職員は予算措置をご存知でしょうが、私たち委員には見えません。例えば、本を購入するにも予算措置があります。それらが分かれば、茅野市のサービスとして茅野市教育大綱の達成につながる予算が提示され、ここで議論されることで、成果が得られるのではないかと思います。
委員	実は例年並みの事業報告書、計画というのは、それはそれで良いかと思っています。というのも、最初、二重構造というお話がありましたが、各部署は自分の範囲しか見ていません。でもここは、全部が見えているところで、結局俯瞰して見ているということも重要ではないかと思っています、それがダイジェストになってしまうと、ボリュームが見えなくなってしまうと思います。今

	もお金の話に近いと思いますが、実はこういった事業は羅列されていたり、博物館の入場者数など、様々な場所で行われていたりすることを把握する視点も重要です。茅野市が展開している社会教育政策の視点も必要だと思っています。必ずしも二重構造ということではないので、確認することで連携を深め、より大きな方向性を示すのがヘッドクォーターの役割かと思っています。各部署がベストを尽くしつつ、統一テーマのような、より大きな方向性を議論する場がないと、部署間の連携は難しいと思います。
生涯学習課長	7 その他 その他に2点お願いします。まず、茅野市の使用料改定について、昨日、市議会で議決され、10月1日から料金が改定となります。6月30日に公布される条例に基づき、公布日以降に予約された10月1日以降の料金から適用されます。各公民館などで説明会を計画し、広報ちので周知を行います。なお、茅野市民館のみ指定管理制度のため、来年4月1日以降に料金改定となります。 もう1点、公民館ですが、現在、公民館とパートナーシップのまちづくり推進課との組織統合について、内部で話し合いを始めています。両部署とも住民自治の支援を目的としているため、機能統合により支援の効率化を図ります。社会教育の役割なども考慮し、今後、社会教育関係者の皆様からのご意見をいただきたいと考えています。
生涯学習部長	予算額について、補足をさせていただきます。皆様には、資料4をご覧ください。ただ、時間がなく申し訳ございませんが、各施設等の重点に掲げた事業の予算額はこちらに記載させていただいています。このように予算を取り、それに基づいて事業概要や実施を含めて状況をお示ししていますので、後ほどご覧いただければと思います。
生涯学習課長	8 閉会 それでは以上をもちまして、令和7年度第1回茅野市社会教育委員の会議を閉会といたします。 ～午後3時12分 会議終了～